

## 田辺かずき 県政報告

古賀発！ただいま  
県政刷新中！

第24号  
2014年度 総集編  
2015年3月発行

<田辺かずき事務所>  
〒811-3103 福岡県古賀市  
中央 1-6-41-203  
TEL : 092-692-8510  
FAX : 092-410-7730  
メール : challenge@  
tanabe-kazuki.jp

【4ページ拡大版】  
■知事への質問実績…2  
■実現力と対話継続…3  
■2月一般質問詳報…4

### 古賀の「声」から政治を動かす

#### □連続16回目の

#### 本会議質問

福岡県議会議員1期目として最後となる2月定例会（2月9日～24日）が開催されました。この4年間の総仕上げとして連続16回目となる本会議質問に立ちました。

県議にとつて、県政課題を解決に導き、暮らしをより豊かに

するための最も重要な活動は、本会議や委員会での知事らに対する質問・提案。最後までこの姿勢を貫きました。

#### □民主主義の サイクル

県議に就任した2011年から、古賀市内各地を回る対話集会を続け、それぞれの地域のイベントを巡り、地元の方々の「対話」に努めてきました。そこから見えた課題を解決するため、全ての定例会本会議で質問に立ち、知事らへの

「提案」を続けてきました。そして、提案を裏らせ、政策を「実現」してきました。

#### □県政全般を テーマに

2014年度も多様なテーマを提起しました。高齢社会に対応できる地域医療・介護体制の整備や子育て支援、地域防災力の強化、福岡・北九州両空港の一体的運営の推進など多岐にわたりました。また、常任委員会では商工政策の充実に努め、農業振興を図るために所属会派として古賀市を視察。さらに議会改革も進めました。私の提案が実り、今年4月の県議選における



市内各地で対話集会を開催  
= 2015年1月28日、千鳥南区

「選挙公報」の発行が初めて実現します。

#### □「手元にある政治」

そして、地元の方々が県政を身近に感じられるよう、「発信」にも全力で取り組んできました。対話集会や地域回りに加え、この県政報告書の発行や公式HP、ブログ、フェイスブックなどインターネットの活用もその一環です。今後さらに活動を強化し、総合的に政治改革を進めていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

田辺の政治活動を連日発信しています！

田辺かずき で 検索

ブログ（政治活動日記）

<http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

公式ホームページ

<http://www.tanabe-kazuki.jp/>

facebook

<http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>

Twitter

アカウント → @tanabe\_kazuki

# 質問する力

4年間、全ての本会議で知事と議論！

私は2011年4月の県議就任以来の4年間、全ての定例会本会議で質問に立ち、知事らと議論してきた数少ない議員の一人です。

福岡県議会と知事・行政は、ともに県政を動かす「車の両輪」。県議は県民の皆さんの「暮らしの現場の課題」について、県議会の定例会本会議や委員会の場で、



知事らに質問・提案し、解決を促すとともに、既に取り組みられている政策が適切かどうか、チェックしなければなりません。

議会改革でも、私の提案から大きな前進が図られました。2015年4月の県議選から「選挙公報」を県民の皆さんに配布します。加えて、議員提案の政策条例を作ったことも県議会全体のこの4年間の成果と言えます。



# 提案する力

## < 田辺かずき 県議1期目の実績 >

# >>> 16回連続 59テーマ

(本会議質問、予算・決算両特別委員会の合計)

質問議会	内容	分野
2011年6月	大規模災害時の広域避難・集団避難の体制整備	防災・減災
同	首都機能移転論と道州制	総合政策
予算特別委	「家電の無料回収所」対策	廃棄物対策
同	若年層の就業、所得対策	労働政策
同	「古賀警察署」の新規設置	警察・治安
同	国際戦略総合特区の展望と課題	経済・商工政策
2011年9月	地域共生型介護の普及(宅老所支援)	医療・介護、高齢者支援
同	実効性ある防災教育	防災・減災
2011年12月	生活保護のあり方と障がいの早期発見	保護・援護、障がい者福祉
同	ミカン農家の現状と果樹振興策	農業・園芸振興
2012年2月	応急仮設住宅の指針(ガイドライン)策定	防災・減災
同	宅老所支援費	医療・介護、高齢者支援
予算特別委	住民の防災意識向上策と防災教育の所管	防災・減災
同	買物難民(買物弱者)対策	高齢者支援
同	中小企業のアジア展開支援	中小企業振興
2012年6月	新たな教育施策と家庭、地域の教育力向上	義務教育、社会教育
2012年9月	子どもの「ネット依存」対策	青少年健全育成
同	「貧困の連鎖」を防ぐ支援強化策	保護・援護
2012年12月	災害時要援護者避難支援の個別計画策定促進	防災・減災
2013年2月	農工商連携・6次産業化による農業振興	農業・園芸振興
同	福岡県の観光戦略	観光振興
予算特別委	地域における在宅医療体制の整備	医療・介護
同	男女がともに能力を發揮できる社会づくり	男女共同参画
同	応急仮設住宅の指針の策定状況	防災・減災
2013年6月	地域防災体制の強化(帰宅困難者、南海トラフ等)	防災・減災
同	地球温暖化対策推進の次期計画	環境保全
2013年9月	子どもの遊びの実態とその改善策	青少年健全育成
同	子ども会育成会と青少年アンビシャス運動の活性化	青少年健全育成
同	学校と家庭、地域の連携による子どもの体力向上	義務教育、社会教育

質問議会	内容	分野
決算特別委	原子力災害時の広域避難の受け入れ体制	防災・減災
同	食育の推進と県産農産物の消費拡大	食の安全・地産地消
同	少子化対策のあり方(出会い応援事業の批判・検証)	子育て支援
同	主要地方道・筑紫野古賀線の整備促進	道路建設
同	子どもの体力向上策(スポコン広場の検証)	義務教育
2013年12月	地域公共交通の将来像(ダイヤモンド交通の導入促進)	広域地域振興・交通政策
同	文化財行政における市町村支援(船原古墳)	文化財保護
2014年2月	保健師の活動の促進	医療・介護、高齢者支援
同	若手農業者の支援策	農業振興
予算特別委	地域防災力強化のための実効性ある備蓄の促進	防災・減災
同	男性の家事・育児参加の促進と企業風土の変革	男女共同参画
同	経営革新に取り組む中小企業の支援	中小企業振興
同	「新法解剖」の意義と実施状況	警察・治安
2014年6月	在宅ホスピスの推進	医療・介護
同	感染症指定医療機関の指定	医療
同	救急医療体制の整備(救命救急センターの指定)	医療
同	2019年ラグビーワールドカップの試合会場誘致	スポーツ振興
2014年9月	防災拠点となる公共施設等の耐震化	防災・減災
同	指定緊急避難場所の指定状況と周知のあり方	防災・減災
同	主権者教育の推進	高校教育・政治参加
2014年12月	2014年度の税収見通しと財政改革推進プラン	財政・税務
同	福岡・北九州両空港の一体的運営ビジョン	空港対策
同	原子力災害広域避難計画	原発防災
同	産業廃棄物行政の推進	廃棄物対策
同	男女がともに働きやすい社会づくり(男性の育休取得促進等)	男女共同参画
同	35人以下学級の維持・拡大	義務教育
同	小中学校の統廃合	義務教育
同	性暴力被害者支援の拡充と性犯罪の抑止	警察・治安
2015年2月	健康寿命延伸と介護・医療費の削減	医療・介護
同	臨時財政対策債の償還	財政

# 実現する力

## 【議会改革－選挙公報発行へ】

これまでの福岡県議会議員選挙では、住民の皆さんが候補者の政見や経歴などを知るための「選挙公報」が発行されないという全国的にも特異な状況が続いていました。2014年秋、私から所属会派の会議で「発行すべき」と提案。県議会全体の同意を得て、同年12月定例会で発行のための議員提案条例を可決しました。15年4月の県議選から発行・配布されます。

また、14年度は社会問題化している危険ドラッグの規制条例を全国で初めて議員提案で制定。これは福岡県議会として12年度の飲酒運転撲滅条例に続く議員提案の政策条例であり、議会改革の一環です。

## 【地域防災力の強化】

東日本大震災の教訓から、「私たちの命を守る」ための地域防災力の強化は喫緊の課題です。福岡県として2014年度も古賀市でモデル事業を展開。特に、自力避難が困難な高齢者ら災害時要援護者避難支援の個別計画策定に関しては、12年度から3年連続、計6行政区でモデル事業に取り組むことができました。14年度は花見東1区と高田区、13年度は古賀東区と新原区、12年度は花鶴丘3丁目区と古賀団地区。各地で成果が上がっています。

## 【農業振興－若手の支援】

農林水産業は日本の根幹であり、持続的発展を図らなければなりません。この4年間、古賀の農業現場の実情を聞かせていただき、若手農業者支援や果樹振興策、農商工連携・6次産業化の促進、食育と県産農産物の消費拡大などを提起してきました。2014年度は県議会の所属会派として、古賀市の現場も視察。JA粕屋青年部を中心とした「スイーツコーン」の特産品化やニューヒーロー「ヨメニコーン改」を生んだ取り組みや、デコボンの生産現場における現状と課題を聞き取りました。

## 【道路、交通安全施設の整備】

筑紫野古賀線は2014年3月30日、古賀市青柳地内のグリーンパーク入口交差点から北筑昇華苑入口交差点までの「古賀2工区」（900メートル）が完成し、4車線になりました。また14年度は、新たに千鳥南区交差点や福岡東医療センター南門、天理教西海大教会付近に11基の道路照明を設置しました。これは地元の皆さんからのご要望を受けたものです。

長年の懸案である都市計画道路・中川熊鶴線（久保区内）の整備も前進。国道3号線までの未整備区間について片側1車線の計2車線、全体の幅員は16メートルにするための事業を進めています。

# 発信する力

政治を身近に感じてもらうため、「発信」を重視してきました。1～2カ月に1回のペースで県政報告を発行し、郵送や新聞折り込みを実施。さらに、朝の古賀駅、千鳥駅、ししふ駅に立ち、配布しています。日々の政治活動の詳細はインターネットの公式HPやブログ（活動日記）、Facebook、

Twitterを使い、連日報告しています。いずれも活動の意義が伝わるよう、分かりやすい記述に努めていますので、ぜひご参照ください。



## 【医療・介護体制の充実】

福岡県は2014年7月1日、地元・古賀市の国立病院機構・福岡東医療センターの体制を強化。重篤な患者を受け入れる「救命救急センター」と重大な感染症の発生に備える「感染症指定医療機関」に指定しました。これにより、古賀市のみならず本県の医療体制が大きく前進することになりました。

また、11年9月定例会における田辺から知事への提案が実現し、県独自の新たな介護政策が実現した「宅老所支援」は14年度も継続しました。

## 【経済・観光、ラグビーW杯】

混雑が常態化している福岡空港の対策として、滑走路の増設だけでなく、北九州空港との一体的運営を進めるよう所属会派として知事に提言しました。これを踏まえ、知事は両空港の役割分担と相互補完についての新たなビジョンを明らかにしています。さらに福岡空港の民営化問題とあわせ、私も2014年12月定例会・代表質問で議論しました。

観光・スポーツ振興と青少年健全育成の観点から2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの試合会場を福岡に誘致する取り組みを進めました。2014年6月定例会・一般質問で課題を含めて知事に提起。なお、2015年3月2日、福岡市の東平尾公園博多の森球技場（レベルファイブスタジアム）が試合会場のひとつに決定しました。



# 対話する力



政治で最も大切なのは、住民の皆さんとの「対話」。政治家としてこの信念を貫きます。さまざまな現場で多くの「声」を聞き、社会の課題を把握し、解決につなげる。原点を忘れず、活動を続けています。

古賀市内全域の公民館・集会所を回り、県政報告と意見交換を行う対話集会。この4年間で開催は80回を超えました。集会では多くの地域課題をいただき、活動に生かしています。これに加え、さまざまな企業・団体さんの会合、サークル活動、お茶会などにもお招きいただき、県政報告をしています。また、夏祭りや運動会、もちつきなどの地域行事、各種イベントを全力で回らせていただいています。



# 介護費814億円削減 — 福岡県試算

2月議会  
一般質問

## 田辺の提起受け、初めて判明 10年間累計、政策推進の参考材料に

福岡県議会2月定例会で、私は連続16回目となる本会議質問に臨みました。県議就任以来、地元・古賀市の皆さん、県民の皆さんとの「対話」から生活現場の課題を見出し、議会の場で質問・提案していくことが最も重要な責務と考え、全ての定例会で本会議に立つてきました。今回、1期目の任期としては最後の本会議質問。テーマは「健康寿命の延伸と介護・医療費の削減」と「臨時財政対策債の償還」です。

健康寿命は、日常生活に制限のない期間と定義されます。当然の話ですが、平均寿命が長くなり、健康寿命との差が開いていくと、介護や医療にかかる費用が大きくなります。逆に差を縮めていくことができれば、社会保障の負担は軽減され、国家の持続可能性を高めていくこととなります。

国民の健康増進に関する目標などを定めた「健康日本21（第2次）」の資料によると、2010年で平均寿命と健康寿命の差は、男性が9・13年、女性が12・68年。こうしたことを受け、「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」を目標として設定。この取り組みの一環として厚生労働省の研究班が調査を進め、健康寿命の延伸が実現できれば10年間で2兆5兆円の介護・医療費を削減できるという推計をまとめました。

そこで、私から福岡県としての試算を出すように求め、知事から「介護費の削減額については、この研究の計算方法を本県に当てはめて試算すると、10年間の累計で814億円となる。1年当たり約81億円であり、本県の平成24年度（2012年度）の介護給付費



2月定例会で小川知事（前列左から3人目）と議論  
=2015年2月17日

3300億円の2・5%となる」との答弁を得ました。これを受け、私からは「こうした数字は、県民の皆さん一人一人が健康づくり・介護予防に取り組んでいくうえで、インセンティブとなり、県政運営上も政策推進の目安になる。健康づくり・介護予防の分野は、住民の皆さんの生活現場に最も近い市町村における取り組みが最も重要であり、今回のような試算を出すことで、政策展開の参考とするような姿勢を県内市町村とも共有していただき、県全体の健康寿命の延伸につなげていただきたい」と要望しました。

### □財政問題で知事と議論

国から都道府県・市町村には地方交付税が配分されています。しかし、国の財政悪化により、地方交付税の財源不足分について2001年度から地方自治体に地方債としての「臨時財政対策債」を立ててもらった仕組みを採用。いったん自治体が金融機関などから借り入れ、返済資金は国が全額負担して地方交付税として地方に配分しています。

これに関し、福岡県において、地方交付税で算入された額と、実際に返済のために積み立てた額に差額が生じていることが判明。緒方林太郎衆議院議員（福岡9区）の質問主意書に対して出された政府答弁を示しながら、知事に説明を求めました。

知事は「01年度から13年度までの返済総額は1504億円、これに対する交付税入額は1899億円となっており、395億円の差が生じている」と明らかにしたうえで、この差の理由について「本県においては、金利の動向に加え市場における福岡県債の評価や投資家の意見を十分踏まえたうえで、最も有利と考えられる借入れを行った結果、1年当たりの返済額が20年返済よりも小さくなる30年返済の割合が、交付税の算定上用いられる全国一律の基準（※2対8）よりも高い（※2対8）ため、実際の返済額が交付税の配分額を下回っており、結果として差額が生じている」と説明しました。

さらに今後の財政運営について質し、知事は「差額が生じているが、県債の返済に必要な財源については、返済計画に基づき、毎年度、計画的に減債基金に積み立てており、適切な財政運営を行っている」と明言。「県債返済のための確実な積み立て、行財政改革の着実な実行、先端成長産業の育成をはじめ、取り組みに對し、投資家から高い評価を得ているところ」

### <田辺かずき プロフィール>

- 1980年5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園 卒園
- 幼少期、古賀子ども劇場会員
- 1993年 花鶴小学校 卒業
- 在学中、第2回古賀町少年の船に参加
- 花見そらばん教室に通う（小2～中3時）
- 1996年 古賀中学校 卒業
- 在学中、生徒会長を務める
- 1999年 福岡県立福岡高校 卒業（高51回、現在は同窓会顧問）
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
- 毎日新聞社 入社 / 福井支局 配属
- 原発事故や災害弱者、日本人拉致問題などを取材
- 2006年 大阪本社社会部 配属
- 橋下徹・大阪府知事、大阪府警、甲子園などを担当
- 福祉問題、地域活性化、国際紛争などにも取り組む
- 2011年 福岡県議会議員 初当選
- 厚生労働環境委員会（～13年）
- 国際交流推進対策調査特別委員会（～13年）
- 【所属】 福岡県議会・新社会推進商工委員会
- 同・防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会
- 同・スポーツ議員連盟幹事
- 全国青年都道府県議会議員の会（福岡県世話人）
- 民主党県政クラブ・県議団（政策審議会企画委員）
- 民主党青年委員会事務局次長
- 【家族】 会社員の妻、7歳の長男、4歳の長女

<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/>

福岡県議会中継

福岡県議会 議員

福岡県議会 議員

福岡県議会の公式ホームページでは、本会議質問の録画映像を公開しています。田辺が1期目の4年間で行った16回の質問も見ることができますので、ご参照ください。